

負けをたまえるか！

— 走りに緻しきれない奥達への

とってもしびアな考察 —

沢 大 至

時として、サイクリングとは非常に孤独なものなのです。時に坂を登っている時、完全にひとりになってひたすらにペダルを踏んでいる時、皆はいったい何を考えられているのではありません。それでは、今までの経験からいったん、人を動かすを登っている時に何を考えられているかを想像してみてください。

まず金谷、あいつは簡単です。『うーん、よし、ヤッケを脱ごう』次に日比野さん、パンを食べながら、『うーん、腹へったなあ、パンでも食ダ

ようかなあ、しかし登りながら食うのは大変だなあ。藤原さんは、『ファン、X.O.、負けてたまるか!!!』名取は、『ちよつとむずかしい。』えーりもうヤケクソじゃん！焼糞？ くさいだろうなあ。『とっつと二ろごしよう。』金谷と藤原は、静かに、『宝谷、』キヨニール、栗原、グブグブ、』富田はどつせたいした事は考えもないに決まっているが、『ええ、』と、『うーん、メゲルなあ。休みたいなあ、何か休む目安も探そう。』そうだが、『ダイヤレーラーの調子のせいにして。』次に小柳さん、『ヒザが痛いなあ、痛いなあ、』一年の鈴木、『わあ、すごい坂だねえ、大変だねえ。』一年の小島、『あ、』シビアな勾配じゃ、ギヤを30に入れこしまおう。』若根さんは、正体不明なから、まあ、『うーん、まあおしちやっただ。』と

いう所でしょう。野崎さんの場合は、「あーっ、  
すごい勾配、ステキ！」もつといじめて、「と  
いう感じでしよう。残りの人達のことばかり  
かりませんので、不明者の代表、堀さんに登場  
してもらいましよう。『オイ、たまには、もつと  
ゆっくりと登ろうぜ！』（あまり他人のことを  
シビアに書くのは、さすが私としても多少気  
が引けるので私の分は、皆さんかつこに書いと  
いて下さい）」さて最後にいよいよ登場、沢木君  
は、  
は、  
は、

と考えることがあることでしょう。エライですネ！  
しかし、こんな事を書いていてはなかなか本  
題にはいれないのでそろそろ本題にはいりまし  
よう。

この中で、藤原さんの「ア、X.O.負けた  
まるか!!」というのは、もちろん他人に負け  
たまるか、という意味ですが、この考えには非  
常に同感であります。坂道を登つて、ペダ  
ルを踏む力のささえとなるのは、やはり私の場  
合にも負けたたまるかという気持ちなのです。  
他の奴も同様に苦しいんだし、そんな時自分  
けのんびりと休む程さうさうしくない私のよう  
な人はきっと、どんなに苦しくてもがんばって  
登り続けるのではないでしょうか。

二の負けたたまるかという感情はようするに  
かなり本人のプライドの問題な中で中には、小  
柳さんや露田などのように、ダウンヒルにおい  
て、負けたたまるか！という感情を車に対して  
発揮する人がいるのもまた当然であるのです。

また、我郎はこの感情がたまにはな面によ  
 く現れているのが注目すべき点なのだが、  
 例えは合宿中を思い浮かべさせて下され。あの食事  
 を。皆、必死に食うではなりましたか。なかには  
 自分が嫌いで食べれないものを、人に食べられる  
 くらいなら死んだ方がましだ。』と無理矢理食  
 こしきう人もいるのです。まさに合宿とはす  
 この面ご戦いそのものごま。なんと執念深い人  
 達の集まったところクラブなめでしょう。それご  
 は、どれが如実に現れた今年の春合宿その他  
 班の人々の食事にたいする考え方を、例によつ  
 て絶断と偏見を書きこみましよう。

まず日比野さん、合宿いさえあは、りくら  
 だつて食えるのだ。お姉さん、大盛ライスもう  
 一杯、うーん、なんといつても食事は、安くこ

量が多いことだからねえ。とうとう竜神徳食堂が  
 』。金谷は、』オレ、食欲ないんだよ。』おばさん、  
 この生卵焼いてもらえますか。それからライス  
 大盛のつネ』とう、竜神徳食堂のあの娘どうし  
 たかな。でもあの食堂、ギョーザがいつも品切  
 れだからダメだよ。』藤原さん、』いやあ、日  
 比野と金谷には、まりったよ。』と言いながら  
 もさすがに抜けめなく小柳さんの刺身に目をや  
 る。小柳さん、』いわだ！こんな生活はいやだ。』  
 と言いながら、大盛の刺身をすはやく飲み込  
 んでしまふ。堀さんは、』キチガイか！こいつら  
 はまったく食うことしか頭にないんだから。』と  
 言いながらも皆につられ、ライスを三杯食がて

しまふ。溝口さんは、』いやあ、僕は別にそんな  
 にたべたくないよ。うん。』なんといつても

軽く2人前は平らげこの物足りなさに、お茶をすすつてゐる。そしてオオ君は「うん、いや、自分の目の前にある食べ物をただひたすら食べてるだけですよ。何しろ食べ物を残すなんざりうのは次木家の恥ですからネ。」と、わざとびよーゆを飯にかけて食べさせている。

この栄光のワ人、春合宿その他班が数えこいたことは、人間やろうと思えばドンブリ飯のタ杯やも杯、或いはチヤンポンに四うごんなんか、樽に食べる、という事実である。そう、食つてやろうと思えば、実に驚異的な量の食事を腹におしこむことが出来るのです。

自転車で必死にペダルを踏む。苦しい時には他の奴に負けてたまるかと、気合いを入れて走ることは、非常に苦しく、疲れるものがある。

共に、非常に腹の減る重労働でもある。負けるものかとペダルを踏んだら、負けるものかと飯を食つたつていいじやあないか、私の言いたいのは要するに、このことであつたのです。わかつただけだぜしよ。

しかし、ここまで来て私には、一つの大きな不安があります。それは、ソロで走つたらいつたりどうなるのだらうという事です。たくさん人がいるから、休まず登れるし、恥ずかしくもなく食堂で飯が食べます。しかし一人となると、そうはいきません。それが恐ろしくて私はまだ、ソロツアーには行つてないのです。どなたかのアドバイスを待つてます。ーおれりー

この文章はフイクションです。文中の内容への抗議等は、いつさい受け付けません。